

---

# 機動戦士ガンダムSEED - C.E.69

月下の梟

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

機動戦士ガンダムSEED - C・E・69

### 【Nコード】

N0227I

### 【作者名】

月下の梟

### 【あらすじ】

コズミック・イラ70。ナチュラルとコーディネイターの確執は深いものとなり、連合のプラントの農業コロニー“ユニウスセブン”に対する核攻撃…血のバレンティンにより、本格的武力衝突へとなっていた。その戦争が始まる1年前の両陣営のパイロットの記録には残される事のなかった戦い…

連合とザフトは何度も激突を繰り返し、その戦火を広げてきた。そして、ここに記されるのはその連合とザフトの二人のエースパイロットの激突を描いた物語である。

コズミック・イラ69。

連合とザフトはこの頃から牽制状態にあり、小規模な激突が各地で起こっていた。そして、メンデルから僅かに離れた宙域ではザフトのエースパイロット“シュヴァルツ”と連合のエースパイロット“ハルバートン”が幾度となくぶつかり合いを繰り返していた。シュヴァルツの乗るジン試作機とハルバートンのメビウス・ゼロの戦いは何者にも介入できない空間であった。そして二人は敵同志でありながら、互いの力を認め合い、良き好敵手として存在しあっていた。そして、二人はある戦線で共に相打ちとなり、偶然にも遭遇することになったのだった。

コズミック・イラ69。

二人のエースパイロットは今日もまた熾烈な戦いを繰り返していた。

「ハルバートン。相変わらず言い腕をしている…」

シュヴァルツは撃墜された自機から降り、その場を離れた。

「まあ良い、ハルバートンも墜落したようだが悪運の強い奴だ。死んではいないだろう。」

落とされたというのにシュヴァルツの顔はどこか誇らしげで嬉しそうだった。廃棄されたコロニー内での戦闘となり、ジンとメビウスが互いに放った攻撃はそれぞれのブースターを破壊し、墜落を余儀なくされた。一方ジンは墜落した場所から数キロ離れた場所にメビウスは墜落していた。

「全く…これではしばらく本部に戻る事は出来んか…」

ハルバートンはそう言いながらも満足そうな顔をしていた。

「さて、救難信号は出したとはいえ、救援が来るまでにはまだ時間がかかるか…おそらくシュヴァルツもこの辺に落ちたのだろう…無事生きているのだろうか…？」

ハルバートンは拳銃を持つと自機から離れた。

シュヴァルツはその優れた感覚で何者かが自身に近づいたことを感じた。拳銃を構え、岩陰に息を潜めて待ち構えた。影を捉えた瞬間、シュヴァルツは岩陰から飛び出し、その者に拳銃を向け、

「キサマ…ハルバートンだな…」

飛び出したシュヴァルツにもハルバートンの拳銃が突きつけられていた。シュヴァルツは身体をひねりながらその場を離れ拳銃を放った。ハルバートンも負けずに拳銃を放ち、シュヴァルツを牽制した。互いに岩陰に隠れての銃撃戦を行うことになった。撃ち合うこと数十分、互いの玉は後一発になっていた。互いに岩陰から飛び出し、その間を詰め拳銃を突きつけあった。同時に引き金を引くもその撃鉄は共に空を切った。

「シュヴァルツ…どうだ？俺の残り残弾数はゼロ…シュヴァルツはどうだ？」

「俺もゼロだ…」

「このままではいつまでたっても決着は着かん。決着は次に回さないか…」

「チツ、しょうがないか…引き分けか…」

二人は拳銃をホルダに納めた。

「なあ、シュヴァルツ…俺達はこれで何度戦ってきたんだ？」

シュヴァルツは考え込んで、

「幼年学校の頃からのライバルだったからな…それもカウントすれば今回が999戦目だったか…」

「しかもその勝敗は３３３勝３３３敗３３３引き分け…こうまで来ると呆れてくるな…」

「確かにな…それにしてもよく憶えていたものだな…」

「それだけ腐れ縁ということだろうか？」

「それ言えているな。」

その言葉に二人は声を上げて笑った。

二人は幼年学校からの親友であり、良き好敵手であった。しかし、時とは非常なものでそんな二人もお構いなしに戦争に巻き込んで行つた。

「何時になればこの戦いは終わるのか…」

「さあな…とりあえずナチュラルかコーディネイターが減ぶまでか

…」

「そんな結果にはならんで欲しいな…」

「そういえば今度俺の部下になった者の中にマリユー・ラミアスという者がいてな。女ながらになかなか筋が良い。あのような若者がこれからも出てくるなら将来が楽しみだ。」

「そうか…とうとう俺達も人を育てるような歳になったんだな…」

ナチュラルとコーディネイターが際限なく争い、殺し合う世界。そんな世界を次の世代には残したくない。

ナチュラルもコーディネイターも考え方は違つてもその根源にある望みは平和である事。それなのに何故、我々は争わなければならないのだろうか？こんな理不尽な戦いはしたくない。人を殺したくて殺している人間なんていないはずなのだ。

この戦いの後、ハルバートンは今回の戦いで怪我が元でパイロットを引退し、地球連合軍第８艦隊提督となる。ハルバートンは新艦と連合の今後の主力となりうる新たな兵器“G”をアラスカに届けるために大気圏でのザフトとの戦いにおいて、ザフトの戦艦を

道連れに散っていった。そして、シュヴァルツは現役のパイロットとしてこの後もヤキンなど多くの戦場で戦っていく。そして、ある青年との出会いは彼を終戦へと…ハルバートンと共に願った平和な未来へと導いていくことになるのであった。

## （後書き）

この話は今私が書いている小説の外伝的な話です。

書いているといってもDESTEINYの本編が地上波で放送されていた頃に書き出した話ですから軽く5、6年前のものの外伝になります。一応完結はしてるんですが納得できず未だに試行錯誤を繰り返してます。

この連合のハルバートンは本編に出ていたキャラクターですが個人的に好きなキャラクターなんです。

あの散り様といい、いかにも武士なところが堪らないんです。

シュヴァルツは本編でもハルバートン同様武士なキャラクターとして描いているつもりです。

近々投稿する予定ですので楽しみにしててください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0227i/>

---

機動戦士ガンダムSEED - C.E.69

2010年10月9日23時42分発行